



野原 恵子 議員
(日本共産党
幕別町議員団)



町の郷土文化施設として、「ふるさと館」、「蝦夷文化考古館」、「ナウマン象記念館」があり、幕別の歴史や文化を学び、次世代に引き継いでいく大きな役割を果たしている。今、ジュニアスクールなど教育にも重要な役割を果たしている「ふるさと館」、アイヌ民族の民具や着物類などを展示している「蝦夷文化考古館」は、老朽化し施設整備が検討されている。資料館は、町民がいつでも気軽に利用でき、地域に開かれていくことにより、幕別の歴史に関心を持ち、愛着を深めることになる。さらに、幕別を訪れる人々に幕別を紹介する施設として大きな役割を果たすことになる。

(1)ふるさと館、蝦夷文化考古館の施設整備、位置の構想は。

(2)施設の運営には専門員の役割が重要であるが、どのように配置していくのか。

(3)郷土文化の掘り起こしをさらに進めていくには、資料の収集、整理、保存が必要である。今後の方

問 郷土文化資料館の整備充実を

答 郷土文化特別相談員などの協力をいただき「整備等基本構想」を組み立てたい

針は。

教育長(1)、(2)両施設とも老朽化が進み、雨漏りなどによる資料の劣化が懸念される。施設整備のあり方や資料の保存、展示方法について検討を進める必要があると認識している。「資料収集機能」、「整理・保存機能」、「公開・普及・教育連携機能」の目指すべき三つの機能を有する施設の整備方針として、「(仮称)幕別町郷土文化資料館整備等基本構想(案)」を作成し、平成27年3月、町文化財審議委員会に示したところ、「各種資料の保存管理の上からも両館は合築が望ましい」、「資料の適正な保存管理のため、空調の整備を望む」、「ふるさと館の建て替えについては、現敷地にこだわらなくてもよいのではないか」などの意見をいただいていた。新たな郷土文化資料館として、ふるさと館と蝦夷文化考古館の機能を併せた施設を新築し、建設位置については、現蝦夷文化考古館敷地としているが、ふるさと



蝦夷文化考古館
(千住：昭和34年建設)

館を別の場所、蝦夷文化考古館を現敷地での新築ということも併せて検討している。

専門員の配置については、平成18年度から郷土文化研究員を配置し、郷土の歴史や民俗、芸術・文化、産業並びにアイヌ民族に関する資料の収集や整理を行っている。ふるさと館においては、開館前の準備段階から「ふるさと館事業委員会」の皆さんが資料整理や企画展示、郷土史研究、ジュニアスクールの運営などを行っており、歴史の散歩道などふるさと館

以外の事業にも協力をいただいている。本年4月には、本町の歴史や文化に精通している方を郷土文化特別相談員として委嘱した。博物館学芸員資格のある地域おこし協力隊員の募集についても準備を進めている。施設の運営に関する専門員の配置については、基本構想の策定において検討したい。

(3)広報紙などを通じ町民に情報の提供を求め、引き続き郷土文化研究員や郷土文化特別相談員に協力をいただき、新たな資料の収集を進めるとともに、寄贈や寄託、発掘などの方法により収集した資料を良好な状態で次世代に継承するため、適切に整理・保存し、収集した資料に関する情報を図書館のシステムと連携して活用できるように、基本構想の策定において検討したい。

再質問 郷土文化資料館が新築されると、資料の整理を行い、移動させなければならぬ。専門の知識を持った人材の配置を。

答 常駐する専門員については、職員が良いのか、学芸員資格を持った方が良いのか、それとも今現在研究員としてお願いしている方が良いのか、基本構想の中で位置づけしていきたい。